2002 年度発足　**坂総合病院　第 24 回倫理委員会　報告**

日時：2006 年 12 月 02 日（土）午後 4 時―6 時 00 分

場所：坂総合病院　新館 2 階カンファランス 2

出欠：歯科医師１、宗教者１、弁護士１、患者１、医師２、事務局２

内容：

1、臨床研究の倫理審査　報告

(1)　病理材料の研究使用について　――「肺腺維症・肺炎におけるリンパ管新生とその役割」「肺腺維症に関連するマスト細胞機能の解明」

- 前回の委員会で承認要件を追加したものの結果報告。

2、第 23 回委員会（06.11.11）報告について確認した。

3、終末期医療に関する討議　⑳

「おわりに」について　――

- この間の検討期間にさまざまな事例・事件が起こったことを追加。当院としては終末期医療の概念を尊厳ある生を全うすることにおく、集団の合議で治療を進めていくこと、決定や説明には厳格な手続きを踏むことなどを強調した。用語についてはこの委員会で議論された内容を記述するようにした。

――意見・質問、結論　――

①　p30　「専門的な教育と主体的な研修」は文章がおかしい。　⇒●「専門的な学習と研修などを受け」などと検討する。

②　p30　「医療者の論理と社会通念との乖離」とはどういうことか。　⇒たとえば脳死では人工呼吸器をはずすようなガイドラインも検討されている。医療者にはもう呼吸器をはずしてもよいという考えはある。しかし一般にはまだ理解がすすんでいない場合がある。――逆に、家族が「もう呼吸器をはずして欲しい」という場合もある。

③　―――一般の人はその場その場で自分の利害で感情的なことも含めて終末期医療について考えることが多いであろうから、経験の多い医療者はそれらをふまえて理性的合理的な判断を提供するのに積極的な役割が必要と思う。　⇒●一定の乖離はあるが、市民感覚での判断も理解して、医療者と一般の人との溝を埋めていく努力が必要であるという内容も入れるようにする。事務局で検討する。

④　市民感覚の話題も出たが、全体を通してチームアプローチ、合議的アプローチの重要性についての強調はどうか。　⇒●文章上さらに、集団的議論、チーム医療下での合議的アプローチを強調することを検討する。事務局検討。

●以上、次回に最終的な答申文書を提案する。

4、ＤＮＲ指示に関する指針について　討議③

――ＤＮＲ指示の指針　部分　――

- 修正の数箇所について確認した。句読点など点検する。

――フローチャート　――

- 「主任」を「師長代行」に変更

――チェックシート　――

- 「主任（または看護責任者)」を「師長代行」に変更。――時間外の場合は師長がいなければ（主任に限らず）師長代行に当たるものがその役割を果たす。
- 句読点のチェック。

――要望書、同意書、申請書　様式　――

――意見・質問　――

- 師長とは看護師長と判断してよいか。　⇒そのようになっている。看護部門のみそういう呼称にしている。――●「看護師長」「当該師長」「師長代行」など、事務局で調整し用語を統一する。看護師の委員の意見も聞く。
- 要望書、同意書が取れない場合はどうするか。積極的治療を進めることになるのか。⇒突発的な急変対応で、書類整備の時間がないときは、現場では面倒な対応をしなければならない。――川崎の事件以来、厳格な手続きが求められることが多くなっている。面倒な手続きになるのはやむを得ない面がある。

●以上を基本確認して、最終的な文書を作成することとした。――終末期医療に関するこの間の真剣な検討にお礼を申し上げたい。

5、倫理委員会委員の継続委嘱について

- 次回に継続の委嘱状をお願いする。

6、その他

a、病院の全体学習の企画について

――2007 年 3 月 8 日（木）の学習時間の企画（案）

- ♦ 3/08（木）午後 1 時 30 分から 3 時 30 分、病院内の大会議室にて。
- ♦ 外部委員を含めたシンポジウムとしたい。――時間をとってもらえるかどうか
- ♦ 仮題「終末期医療の答申に寄せる思い」

- 委員長から。　職員全体に浸透させる企画として検討している。
- シンポジウムは賛成だが、企画内容によってどう進めるか。継続してやるのかどうか。⇒今回の答申はやや抽象的な内容であり、それをそしゃくするようなものにしたい。答申は出されているので、外部委員から市民感覚でのそしゃくした発言を期待したい。年間 1 回だけの企画になっている。――倫理委員会の役割は院長に対して答申を出した段階で終了である。とくにそこで変更するとか、決議するとかいうシンポジウムではない。
- 2 月の倫理委員会にてあらためて検討することとした。

b、2007 年の倫理委員会の検討課題

- ♦ 現場の課題を、看護現場などから出してもらう
- ♦ 臓器移植について　――もう少しあとにしたい。
- ♦ その他　――フリーディスカッション

- 委員長から。　今後は治験・臨床研究の審査が増えることが予測される。かなりの数が申請されるが、①「事務局審査承認⇒倫理委員会へ報告承認」のケースと②「倫理委員会審査承認」のケースとを分けて合理的にすすめていきたい。

――院長とも相談するが、これからは、現場の事例も取り上げて検討をすすめていきたい。臓器移植の課題は法律的な枠組みがすでに進んでおり、坂病院としての移植医療は

やっていないので倫理委員会の検討課題からははずしていきたい。

- 輸血拒否問題は実例があったのかどうか。この答申が役に立っているのかどうか。
  ⇒数例あった。外科と産婦人科。――拒否申請が出されて輸血容認の説得をした時に（文章にはしないが）おおむね了解に至った例、病院内部で合意できずに他病院に紹介した例、などあった。倫理委員会の答申を尊重した、管理部（案）の形で実施されている。――しかし実施段階で現場ではさまざまな論議になってもいる。

■ 次回委員会日程

――2007 年 2 月 03 日（土）午後 4 時、「新病院 2 階カンファランス 2」にて。

以上。